

かぶとづくり 養蚕と兜造民家

芦川では、養蚕が盛んになる以前は、冬の寒さの影響もあって畑ではアワ、ヒエ、ムギ、トウモロコシ、サツマイモなどの自給自足用作物を作り、炭焼きなど、山からの恵みを換金して暮らしていました。明治から昭和初期にかけて養蚕が盛んになり、戦後の道路整備によって、こんにゃく栽培が盛んになり、現在では、高冷地野菜の栽培が盛んになっています。

江戸時代、谷村藩（現在の都留市付近）が良質の絹織物の産地であったことから、芦川地域で生産される良質の絹糸は重宝されてきました。明治時代、養蚕はさらに盛んになり、この頃、多くの家々の屋根が兜造に改築されました。現在、芦川に残っている兜造民家の多くは、明治時代から大正時代にかけて造られたものですが、なかには、18世紀に建てられた家の屋根を改造して兜造にしたものも見られます。

芦川町には150棟を超える兜造民家群が残っていますが、これほどの数の古民家群が残る地域は全国的にも例がありません。



兜造民家とは・・・

光と風を取り入れるため屋根の一部を切り上げたもので、養蚕の盛んであった山梨、長野に多く見られます。

ごあいさつ

清流と緑に囲まれた笛吹市芦川町では、古くから炭焼きや養蚕が営まれ、傾斜地を耕作するために積まれた石垣と、150棟を超える兜造民家が集落全域に残ります。このガイドマップを片手に、日本有数の規模を誇る兜造民家群の風景をお楽しみください。

 笛吹市長 萩野正直

山梨県笛吹市教育委員会文化財課

〒406-0031 笛吹市石和町市部809-1 TEL 055-261-3342(直)



芦川町内 マップ



そば打ち体験施設 おてんぐさん

そば打ち体験 1,400円
(前日までの予約が必要)

●ご予約・お問合せ
田舎体験おてんぐさん
☎055(298)2833



芦川農産物直売所 おごっそう家



芦川特産の高冷地野菜、山の恵みの特産品販売所

●お問合せ
芦川農産物直売所
☎055(298)2820

宿泊体験施設 芦川グリーンロッジ

自然に囲まれた体験型宿泊施設。

●ご予約・お問合せ
芦川グリーンロッジ
☎055(298)2081



自然満喫 すずらん群生地



芦川源流域に広がり、5月下旬から6月上旬が見ごろです。

●お問合せ
市役所芦川支所
☎055(298)2111

来て! 見て! 体験! 芦川の里



上芦川・新井原
中芦川・鶯宿

ガイド
マップ

芦川 兜造民家と石垣の風景

笛吹市 笛吹市教育委員会

水路と若彦路の里、

かみあしがわ

上芦川集落

若彦路は、甲斐の古道として古くから人々の往来があり、戦国時代には、甲斐の守りの要所として、関所が設けられていました。上芦川集落は、武田家が若彦路沿いに設けた関所(口留番所)を中心に発展した集落です。関所(口留番所)があった付近には今でも上芦川の道祖神が祀られ、古い石垣も残っています。関所(口留番所)付近には17世紀に建てられた家があり、今でも生活が営まれています。集落内には水路が巡らされ、石垣と古民家と清らかな水路の景観をつくっています。

かみあしがわ すわじんじゃ

①上芦川諏訪神社

旧村社格 祭神建御名方命(たけみなかたのみこと) 一間社流造桧皮葺本殿(いっけんしゃながれづくりひわだぶきほんでん)は明治33年の再建ですが、元禄14年(1701)に建てられた本殿の材料を再利用しているため、外観は江戸時代中期の建物のように見えます。江戸時代の建替えや修理の際の棟札が数多く残ります。境内地のケヤキの巨樹林は笛吹市の天然記念物に指定されています。

じょうえいざん とうりんじ

②常栄山東林寺

日蓮宗、小室山妙法寺末 慶長7年(1602)の検地帳に東林寺の記載があります。もとは、現在位置よりも西にあったものが元禄6年(1693)に現在の位置に移ったと伝わっています。山門の四脚門は江戸時代の口留番所通用門を明治期に移築したものとされています。

せきしよ くちどめはんしよあと

③関所、口留番所跡

戦国時代から江戸時代前期にかけて、諏訪神社東付近に関所(口留番所)があったことが絵図や古文書の調査からわかってきました。また、戦国時代末から江戸時代初期(慶長年間)には、この付近に屋敷群があったこともわかってきました。その後、四脚門は現東林寺付近に移され、明治時代に入り関所は廃止されました。

④17世紀、18世紀の家

上芦川集落の中ほどには、17世紀、18世紀に建てられた家が数軒あり、今でも住宅として使われています。内部は今の生活にあわせて改造されていますが、大黒柱や大きな梁などは、ほぼ建築当時のままだに残されています。

名工の石垣、

あらいばら

新井原集落

新井原集落は、もともとは上芦川の枝村で、石垣職人や茅葺職人も住んでいました。約80年前、静岡から新井原に移り住んだ石垣職人は名人と呼ばれ、芦川各地に美しい石垣を残しています。名人の石垣は、表面がきれいに整えられ、さらに石垣の裏側で石を強固に噛み合わせています。これらの石垣には、寸分の狂いも見られません。

ほうじゅじ みどう

①宝珠寺御堂(阿弥陀堂)

新井原は、かつては上芦川村の枝村であったため、住民は上芦川の諏訪神社の氏子になっています。一方で中芦川の宝珠寺の檀家にもなっているため、新井原には、宝珠寺御堂と呼ばれる阿弥陀堂があります。阿弥陀堂の前には宝暦4年(1754)と文化12年(1815)の念仏塔が建っています。阿弥陀堂の建築時期ははっきりとは分かりませんがおよそ1800年頃ではないかと推定されています。

②新井原の道祖神

新井原の道祖神は、上芦川から新井原集落を通り中芦川に向かう通称上の道(旧市川道)と、県道から芦川を渡って集落に向かう道が合流する位置に祀られています。石を積んだ台座の上に複数の丸石が載せられています。道祖神の近くの石垣の間には小さな石造物が納められています。

③明治の名人の石垣

上の道沿いには、明治の名人と呼ばれた石垣職人が積んだ石垣が見られます。中でも、新井原の「働く婦人の家」西側のグラウンド裏石垣は、畑などから掘り出された自然石を使い、石の形状に合わせて3mの高さまで積み上げたもので、80年以上経った現在でも狂いやはらみは見られません。新井原には、今でも昭和、平成の石積名人が住み、石垣を積み続けています。

こかげ

④蚕影信仰

芦川の兜造民家は養蚕とともに広がっていきました。芦川の各集落では、蚕神信仰が盛んで、蚕影山と刻まれた石造物を見ることが出来ます。特に、新井原にある天狗山の蚕影神社祭典は盛大で、芦川の各集落はもとより、峠を越えた町や村から大勢の人が集まりました。

山の恵みと行商、

なかあしがわ

中芦川集落

芦川では、かつては行商が盛んで、中芦川では多くの人々が黒坂峠を越え、甲府盆地に炭を運びました。高冷地で、山に隔てられた山村のため、農作物は自給自足用とされ、現金収入の多くは炭などの山からの産物に頼っていました。芦川の炭は、比較的簡単に焼くことが出来る黒炭が中心で、男性が焼き、女性が行商に出かけました。中芦川の人々は、連れ立って暗いうちに芦川を出発し、黒坂峠を越え、甲府まで炭を運びました。

しらひげじんじゃ

①白髭神社

旧村社格 祭神猿田彦大神(さるたひこおおみかみ)、武内宿弥(たけのうちのすくね)、甲賀権之守(こうがごんのかみ) 本殿は梁間(はりま)二間、桁行(けたゆき)二間の千鳥破風付入母屋造(ちどりはふつきいりもやづくり)、大正11年の建立。拝殿には回り舞台があり、かつては芝居や演芸が行われていました。

しゅくろざん ほうじゅじ

②宿鸛山宝珠寺

臨済宗向嶽寺(こうがくじ)派 開基は室町幕府四代将軍足利義持の孫で芦沢源太夫常元で初めは天子ヶ岳の山中に宝珠庵を営んだといいます。後に現笛吹市境川町大黒坂の聖応寺の天祥全(てんしょうぜん)和尚が開山し、江戸時代の初期に現位置に移りました。その後火災で焼失し、天保3年(1832)に再建されました。本堂は正面七間、側面六間で、梁間六間の庫裏(くり)がL字型に取り付きます。宝珠寺山門前には、江戸時代の月待塔(つきまちとう)や庚申塔(こうしんとう)が並んでいます。

③百番観音

宝珠寺の裏山にあり、「縁起」によると、「天文の頃、開基足利氏常元西国、秩父、坂東の霊跡を巡拝し、土を背負い持ち帰り安置し、尊像を設け、号して桃林園百番観世音と昌す」と記されています。「縁起」によると、その後、災害で流失し、天保13年(1843)に再興したといわれています。

④中芦川の道祖神

道祖神は、悪霊や災厄が村に入らぬよう村境などに祀られていることが多く、男根を模した石棒や、丸石、双体など様々なタイプがあります。中芦川宿鸛山宝珠寺山門前付近に直径1m程の丸石道祖神があり、1月14日の祭日には、華やかなオヤマギが立ちます。中芦川には、道祖神信仰のほかにも秋葉山(あきばさん)信仰、石尊(せきそん)信仰に関わる石造物、馬頭観音などが所々に見られます。

中道往還が育んだ集落、

おうしゅく

鶯宿集落

鶯宿は、中道往還を通る商人の宿場町として発展してきました。中道往還の歴史は古く、奈良、京都などの都と甲斐国を結ぶ最古の道といわれています。戦国時代末には、徳川家康がこの道を通り甲斐国に入りました。

鶯宿には、足利義澄(よしすみ)に関わる伝説があり、鶯宿集落の芝起しといわれる大勝(おおかつ)家は、足利義澄の重臣大勝左近将監(しょうげん)の末裔といわれています。

鶯宿集落にも多くの兜造民家が残ります。ほとんどが茅葺屋根にトタンを被せた姿で今に伝わっています。

おうしゅく すわじんじゃ

①鶯宿諏訪神社

旧村社格 祭神建御名方命 本殿は一間社流造、向拝(こうはい)一間。拝殿(はいでん)は梁間四間、桁行六間の入母屋屋根。諏訪神社境内は、19世紀前半頃まで御崎神社があり、諏訪神社は参道石段を降りた西側の屋敷地付近にあったことが絵図等の資料から分かってきました。鶯宿の長徳寺寺記によると、現在の位置に移ったのは万延元年(1860)のことです。

きゅうえいざん ほんごくじ

②久栄山本国寺

法華宗、徳栄山光長寺末 本堂は、正面七間半、側面六間で、宝暦12年(1762)に再興され、同時に庫裏も建立されたと伝わっています。庫裏の規模は正面五間、桁行九間の切妻(きりづま)造で本堂と太鼓橋でつながっています。本堂裏手の壮大な大石垣の石積技術は、明治期の石垣職人の手によって継承され、現在残されている屋敷の石垣などに生かされています。

ばいけいざん ちょうとくじ

③梅溪山長徳寺

臨済宗向嶽寺末 開山は、全養臺山(ぜんようたいざん)和尚、開創当時は真言宗で、文明11年(1479)または弘治元年(1555)に臨済宗に改宗したと伝わっています。本堂は、正面八間、側面七間半で屋根は入母屋造、安永8年(1779)の建立と伝わっています。足利幕府11代将軍義澄の近習(きんじゅう)、大勝左近将監と宮川右近将監の一族が芦川の地に隠棲し、大勝左近将監の子孫、大勝甚兵衛が長徳寺を足利義澄公の牌所(はいじょ)として菩提(ぼだい)を弔(とむら)ったという伝説が残っています。長徳寺山門の石段左右の石垣や本堂裏の高石垣(たかいしがき)の技術もその後の芦川の石垣に生かされています。



1 諏訪神社 大ケヤキ



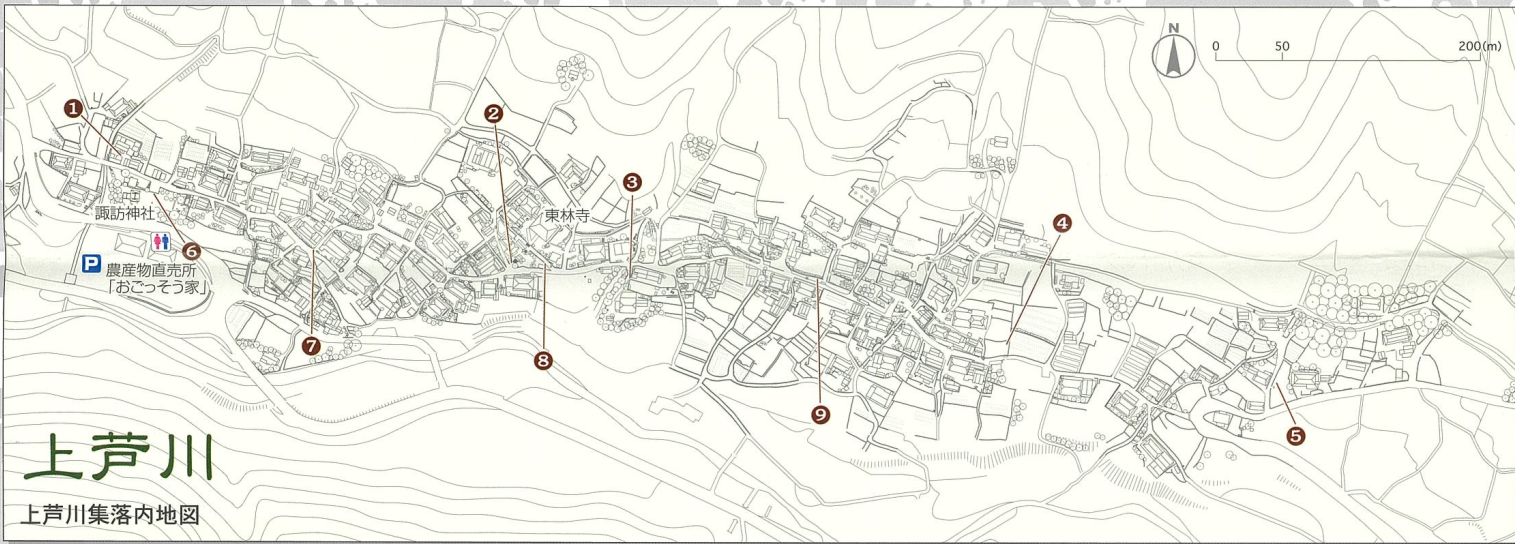
2 東林寺



3 沢の風景



4 馬頭観音



上芦川

上芦川集落地図



5 兜造民家



6 上芦川諏訪神社



7 旧関所付近



8 題目塔



9 水路風景



1 そば打ち体験施設「おてんぐさん」



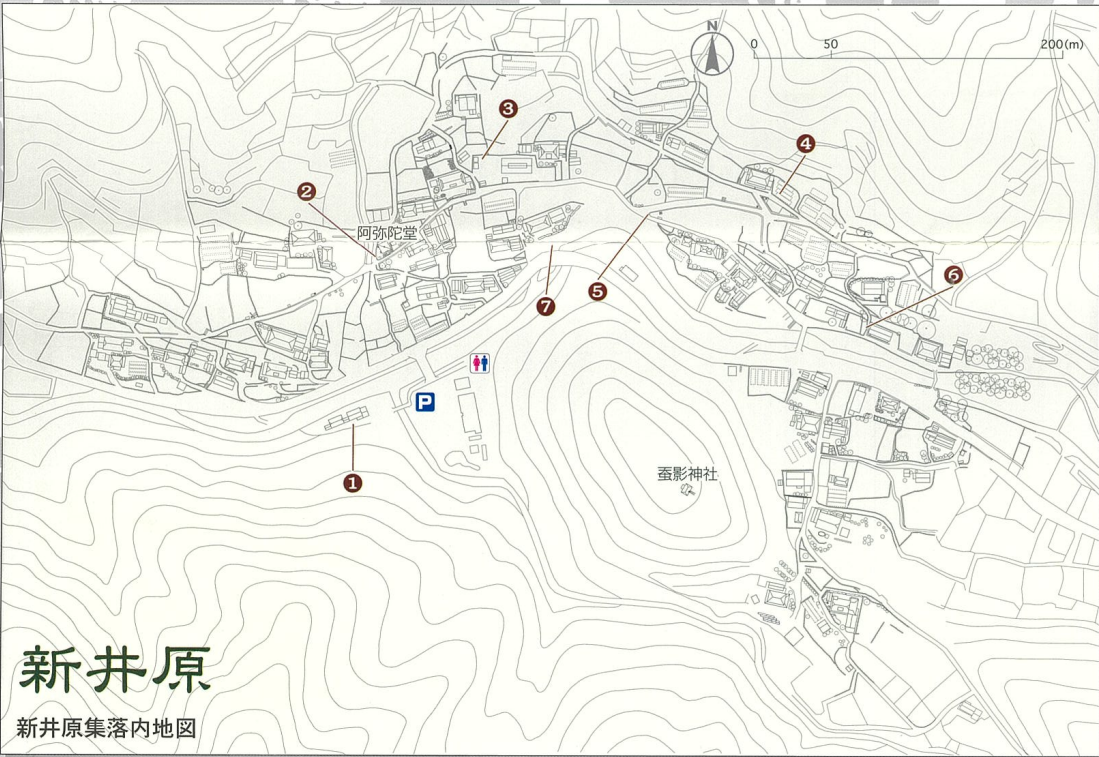
2 宝珠寺 御堂



3 名人の石垣



4 名人の石垣



新井原

新井原集落地図



5 新井原 道祖神



6 石垣の風景



7 石垣の風景



1 馬頭観音



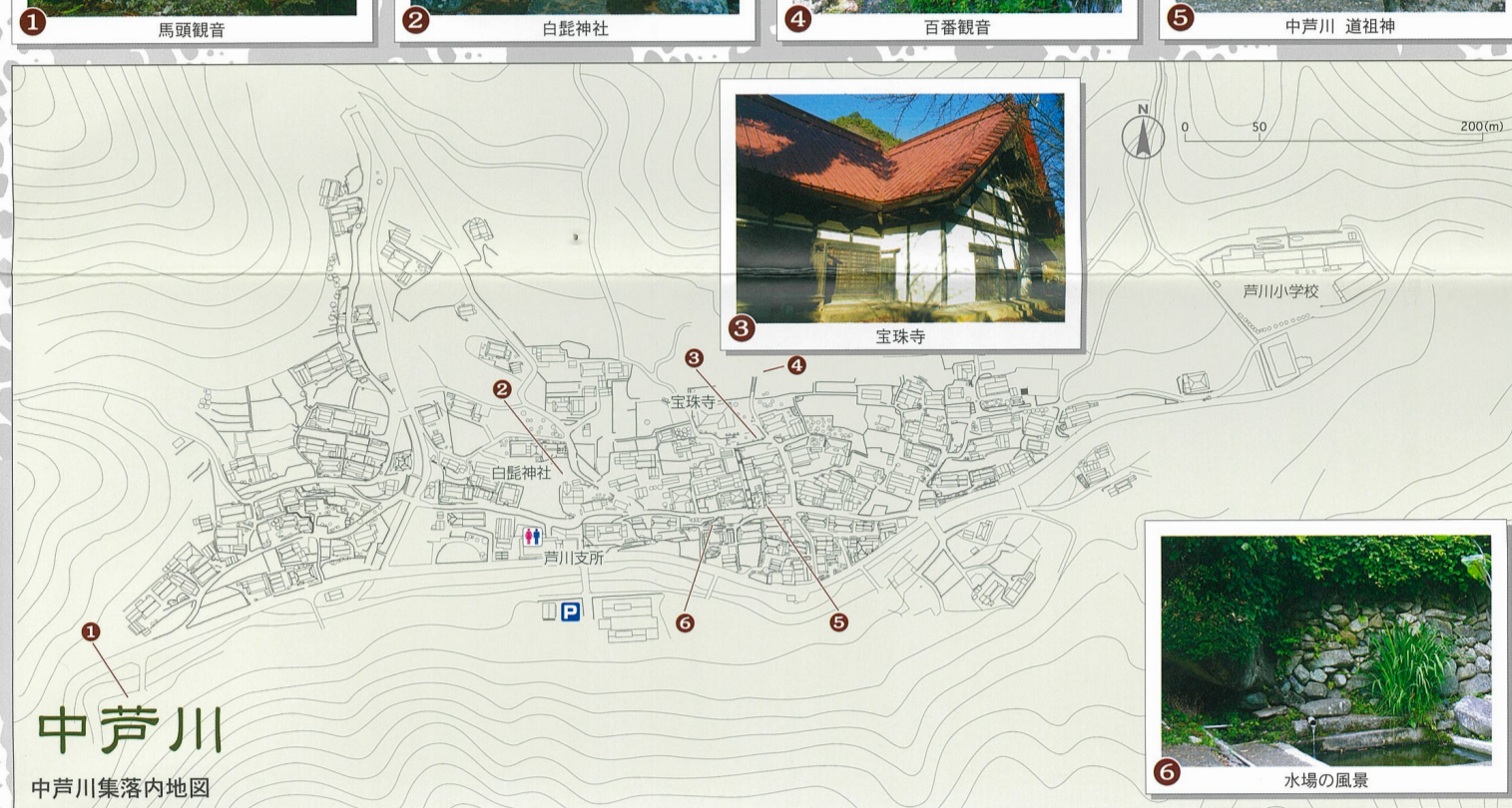
2 白髭神社



4 百番観音



5 中芦川 道祖神



中芦川

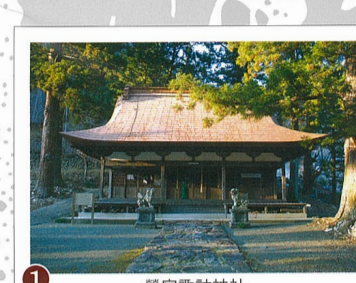
中芦川集落地図



3 宝珠寺



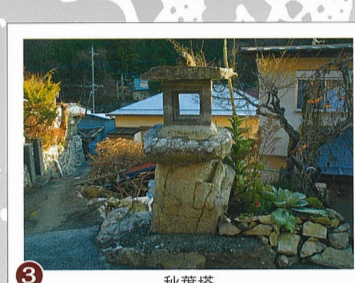
6 水場の風景



1 篤宿諏訪神社



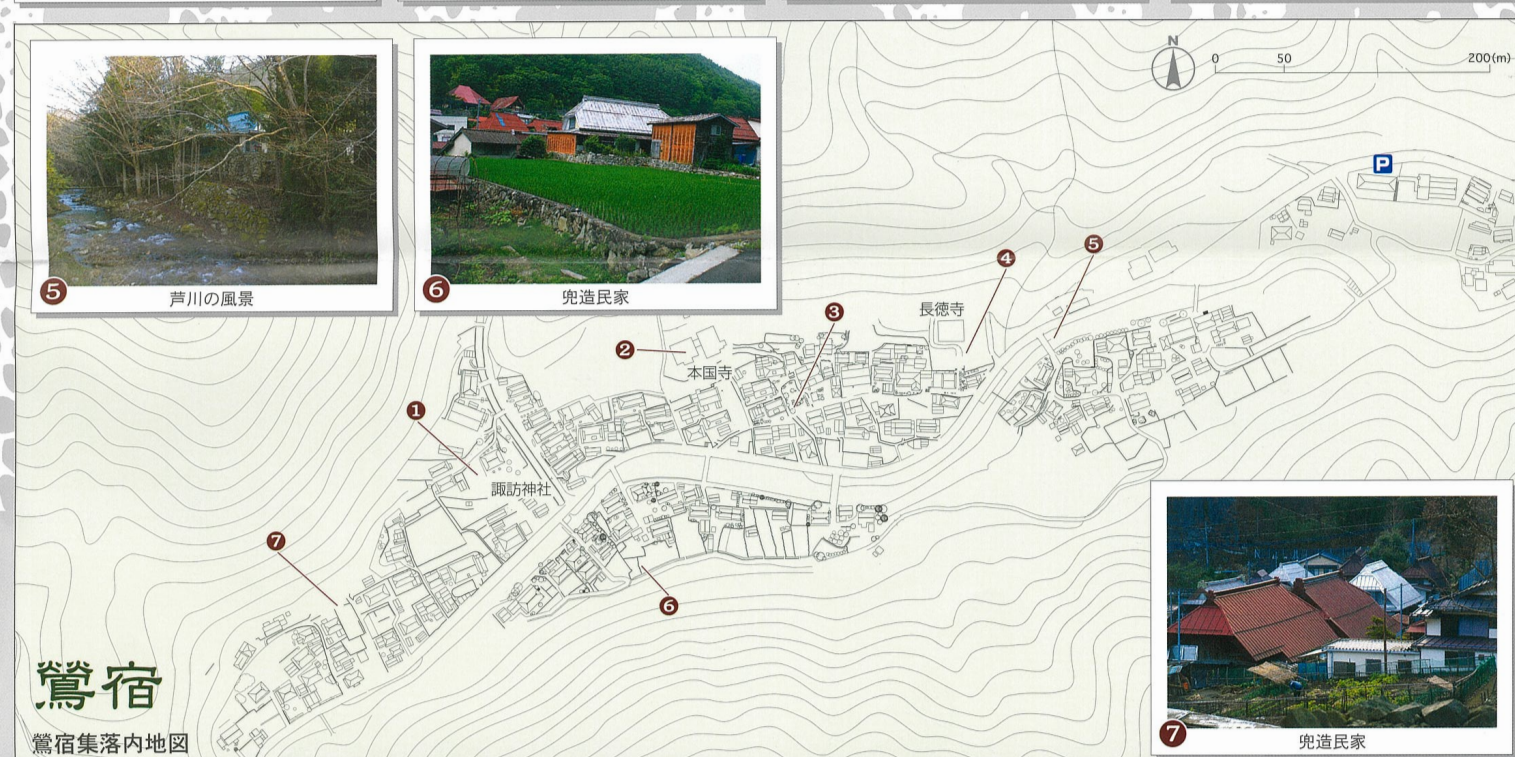
2 本国寺



3 秋葉塔



4 長徳寺



鶯宿

鶯宿集落地図



5 芦川の風景



6 兜造民家



7 兜造民家